

医療崩壊

医療法人 藏春堂 小西病院 小西 則久

医療崩壊はなぜ起きたのか？ 04年度に導入された新臨床制度に端を発して医師不足が顕在化した。それに伴い、病院閉鎖や特定の診療科の閉鎖が起こった。その結果として医療機関（病院）へのアクセスが悪化して必要な医療が受けられない状況が地方都市を中心に発生した。

医師不足の背景には、激務の割に給与水準が低い勤務医を辞めて開業医へ転じる流れ（立ち去り型サボタージュ）が強まったこと、産婦人科に代表される医療訴訟率の高い診療科の医師になる事を避ける傾向にある事などがあげられます。又、医療の高齢化割合の増大に伴う医療費膨張も今後の大きな問題点です。

日本の社会は「百年に一度の波」と呼ばれる深刻な不況にあえいでいます。

しかしこれは、時代が大きな変化を遂げる過程で迎えた谷間であり、新しい時代の夜明けに差しかかっている事を見過ごしてはなりません。新しい時代の下ではモノゴトを判断する基準となる価値観、座標軸の大転換が起こり、人の生き方・考え方が大きく変わります。今の状況は、明治維新以来の社会変革の時、すなわち歴史的転換期を迎えたとも言えます。

現実、アメリカ型資本主義の崩壊に始まり、世界的に社会・経済を変革しなければならない状態にあります。アメリカではオバマ政権が誕生し「Change」を掲げて大きな政策転換を行っています。

日本でも政界再編を含め、大きな転換がおこる気運が高まっています。その中で医療も大きな変革の時代がやってきました。

今般の医療崩壊は20世紀型医療から21世紀型医療へと医療の体質を大きく変える時代の必然と考える事はできないでしょうか。そういった意味では、「医療崩壊」を崩壊ととらえず「医療維新」と捉えるのが正しいと思っています。

先日、医師・患者・学者・ジャーナリストらが集い「医療志民の会」という会が発足しました。この会は、医療を従来のように厚生官僚、政治、医師会等に任せるのではなく、情報発信・政策提言を通じ、健康に恵まれ安心して暮らせる医療制度の再構築を目指しています。

日本の医療には猶予はありません。この会発足主旨のように、医療者ももとより国民一人一人がこの重要な過渡期に内向きの狭い視野で物事をとらえるのではなく、現実を見て、外を見て、全体を見て、先を見て、新しい医療を築いていかなければならないのです。